

越中一宮

高瀬神社
社報

撮影:南部写真館 南部 栄氏

第5号

平成17年1月1日

越中高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

明けましておめでとうございます。昨年は災害の多い年でありましたが今年は災害のない良き年でありますよう、神々をお願い致します。

中越地震で大変な災害を受けられた方々にお見舞い申し上げますと共に自然のエネルギーに感心と驚異を感じました。また台風二十三号で倒木の被害を受けられた方々にも心からお見舞い申し上げます。例年にない災害が多いと私は単純に自然災害だと云っておれない気がします。自然が人間に試練を与えてくれたように思えます。自然破壊を無意識のうちに利己主義的にやり、人間だけが利益を得る他の動植物は生活権や生存権をおびやかされても何も云わずに耐えて生きる、そんな姿を自然は



新年のご挨拶

宮司 藤井 秀 弘

人間に反省しなさいと云っているのかも知れません。私達もつとつと自然界に生きるものが助け合うことを考えないと次々に災害が起こるように思われ、その度ごとに多くの人々が犠牲となり不自由な生活をせねばならないのではと思ひ心の痛む思いがします。

新しい年、誰もが幸せで人々が手を取りあつて生活できる年でありますよう神々に祈りを捧げたいと思っています。苦しいことも悲しいことも重なり越えるための方法を各自で考え、努力し、助け合うことが人の世であると思ひますし、自然を大切に、自然を師として敬うことも生きるものの務めでありましょう。人間が生きたために自然があり、地球が動いていると思うことは、

自惚れだと私は思うのです。人間が大自然を創造し、地球を動かしているのではありません。自惚れにはいつか終わりがあることを知らなければなりません。「一年の計は元旦にあり」と云う言葉がありますが、この言葉を各自が簡単に解釈したり、難しく解釈したりして見ると、一年間の生活にゆとりと、いづまりの両面が出て来ると思いますが、それが人々の生活と云うものだとは私思うのです。ですから祖先が、人生の先輩たちが、人生の道標を教えてくれているのです。その中に自然の驚異とか自然に対処する方法を教えてくれているのですから、それに目をむけることが大切なことだと思っています。



謹賀新年

平成十七（乙酉）年
皇紀二六六五年

宮 司 藤 井 秀 弘

権 宮 司 藤 井 秀 嗣

禰 宜 齊 藤 直 己

全 河 合 正 登

権 禰 宜 浦 泰 宏

巫 女 玉 井 千 里

全 杉 本 絵 里 香

事 務 員 黒 田 三 津 子

囃 託 岩 倉 友 子



『高瀬神社の社歴と 藤井家について』

責任役員
奉賛会長 西 田 東 作

あけましておめでとうござい
ます。

高瀬神社社報『越中一宮』が
昨年一月元旦に創刊されました
毎号に宮司さんの社頭講話が掲
載され、楽しみに拝読させて戴
いております。永年、神社にお
参りしておりますも神社の歴
史や藤井宮司さんの家系につい
て触れる機会が少なく、もっと
知りたいと思い調べてみました。
責任役員をお勤めになった故岩
倉節郎さんが六十七代秀直宮司
さんの銅像建立時に『神のまに
まに』という記念誌を発行され
ました。其の中に、このことが
記されておりましたので一部ご
紹介します。

『二宮は一国に一社定められ
ており、国司が任国に着任の折、
管内の神社に巡拝し中央の神祇

官に代り年毎に奉幣する。その際、
第一に参拝するのはその国内で
最も重要な神社である。越中国(富
山県)においては当神社が越中
一宮と定められており、平安時
代初期の東大寺領莊園跡の国指
定史跡『高瀬遺跡』や大宮司、
神子畑、勸学院など氏子の地名
から往時の面影を偲ぶことがで
きる。特に感動したのは、藤井
宮司家の家系である。藤井家の
先祖は第三十八代天智天皇の御
二男武彦命で大和田田原の里に
住まわれたことから田原天皇と
も称された方である。現在の秀
弘宮司さんは藤井家六十八代目
に当り『延喜式内社』高瀬神社
と雄神神社の外、県内六十数社
という多くの神社で宮司を努め
られる全国でも稀に見る尊い家
系である。武彦命から数えて十

五代四位上兼中将、秀方様が仁
寿二年(八五二年)の正月、勅
命によって越中国砺波郡、高瀬
神社の祝部(宮司)として下向
された。その当時の砺波地方は
利波臣一族という古代豪族の支
配下にあつて高瀬神社は砺波地
方の産土神、農耕神として絶大
な崇敬を集めていた。藤井家は
高瀬神社の南西にあたる権者と
呼ぶ場所に居を構えて、神社を
中心にした高瀬庄の秩序と安寧
を保つ心柱として代々の宮司が
努力されてきた。四十八代秀俊
様の頃、越中守護代遊佐徳盛連
沼城主は高瀬庄に代官を置き、
東大寺の年貢の取立てを請け負
っていた。中でも代官下長某、
柚留木某等の年貢の取り立ては
理不尽を極めたので、永享八年(一
四三六年)高瀬庄は二十人の名
主が連署して直接、代官解任の
大訴を起こした。これが北陸地
方での百姓一揆の最初とされ、
今も東大寺古文書の中に保存さ
れている。この百姓達を指導し
て結合させ、その難を除く為に
藤井一族は命を懸けて何度も悪

《平成十七年》 祭 事 暦

一月 一日	歳旦祭
一月 三日	元始祭
一月 二十五日	天神祭
二月 三日	節分祭
二月 十一日	紀元節祭
二月 十七日	祈年祭
三月 八日	鎮火祭
三月 二十日	春季皇霊祭
四月 三日	神武天皇祭
四月 十日	春季祭
四月 十日	祈年穀祭
六月 十九日	風宮例祭
六月 三十日	夏越大破
七月 吉日	稲荷社例祭
七月 二十日	人形感謝祭
八月 十六日	除熱祭
九月 十三日	中禮祭
九月 二十三日	秋季皇霊祭
十月 吉日	献茶祭
十月 十七日	神嘗祭当日祭
十一月 三日	明治節祭
十一月 十三日	神明宮例祭
十一月 十五日	七五三祝祭
十一月 二十三日	新嘗祭
十二月 二十三日	天皇節祭
十二月 三十一日	師走大破
全	除夜祭

◎ 毎月一日・十三日 月次祭
◎ 毎月十三日 交通安全祈願祭

代官を交替させ、百姓達を救った事実は当時大変な事件であった。

その後、文明十三年（一四八一年）一向宗徒の一揆に古豪石黒一族が滅亡し、高瀬衆との軋轢も燎原の火のように燃えさかる。一向宗徒によって高瀬神社は焼失し、藤井家は城端近くの山中、東西原村に落ち延びた。その後、折を見て一族は五月雨の暗に乗じて雄神川を渡り、五箇山の奥深い村に入った。その時高瀬庄の名主達を集めて『時代の流れに抗することより、流れの中で一族、一村を守る事こそ肝要だ』と泣いて別れを告げたと聞く。常に百姓、庶民の事を念頭に置き、事が起きると自らが指導者となる正義の血が脈々と流れているのが藤井家であった。

時代が流れて天文年間に至ると宗徒の一揆も漸く一段落をして五十二代備中頭秀仲様の時に五箇山山中から現在の庄に帰って来られたということである。とにかく正義感が強く幾多の大小の事件や苦難の中でも藤井家の人々は、それこそ一滴の岩清

水が集まって細い流れを作り、やがて大河の流れになるような一途の努力を常に忘れず、代々の氏子の苦しみも喜びも分かち合って、共に千百年の永きに亘って歴代の宮司さんたちが私たちの先祖と深い深い交わりを結んで来た不可思議な縁によって今日があるように思えてならない。・・・（以下略）』

崇敬者の一人として、本当に今日までの御守りに深甚なる感謝の気持ちを捧げたいと思います。特に高瀬神社一社だけでも年中行事が多い中であって、六十数社の兼務神社の春秋祭等、しかも山の中の険しい道のりを今

の様な自動車も無い昔から駆回って奉仕して来られた藤井家歴代の宮司さんの草鞋履き姿を想い、涙と共に手を合せたい気持ちにさせられたのは氏子の皆さん共通の尊敬の念であつたろうと思います。六十九代目権宮司（秀嗣）さんに七十代目の子供（秀郷）さんが誕生されて本当にお目出度い事と喜んでおります。秀直宮司さんが亡くなられてから私

は藤井家の墓参りに何度も行きました。が、先祖を大切にされる秀弘宮司さんは歴代の宮司さんの夫婦墓を立派に建立されて壱千百年の永い間の先祖の墓を整然と整理され、丁寧にお祭りされている様子は実に壮大にして厳肅、桃源郷の様な楽園になっている姿に、自然に頭が下がるのであります。私達の先祖崇拜の二本として見習って行きたいと思っています。

御祭神の大国主命、天活主命、五十猛命たち大神様の尊い御導きとお守りを戴いて今年も一年間、氏子崇敬者一同が健康で幸多い平和な生活が出来ます様、謹んでお祈り申し上げます。

終わりに秀直宮司さんが何時も教えとして唱えられていた明治天皇御製を御紹介して、年頭のご挨拶と致します。

目に見えぬ神に向いて恥じざるは人の心のまことなりけり。

迎春

ブライダル・初宮・七五三撮影

井波店 南部スタジオ

TEL 〇七六三・八二一〇・一三〇

富山店 南部スタジオ

TEL 〇七六四・三二一・八五五

婚札着付

ノビアデサロンみたに

南砺市北川一八五二

TEL 〇七六三・一八二一〇・四二三

http://www.salon-mitani.or.jp

田島のし店

代表 田島悦子

砺波市本町七一四

TEL 〇七六三・三三二・二五二〇

巻御所落雁本舗

河内屋菓子舗

南砺市本町一の三四

TEL 〇七六三・一八二一〇・四〇二

株林クリーニング

代表取締役 林 晴夫

南砺市本町三丁目一四番地

TEL 〇七六三・一八二一〇・二八九



例 祭

去る九月十三日午前十時より例祭が斎行されました。

巫女の「浦安の舞」につづきコーラスグループ「ソット・ヴォーチェ」の伴奏にあわせ参列者一同により「高瀬神社奉賛歌」が奉唱されました。

また、功霊殿例祭も併せて斎行され、遺族会一二〇名参列のもと、井波松風会による吟詠奉納も行われ、御英霊に感謝の誠心を捧げました。



新嘗祭

収穫感謝のお祭りである「新嘗祭」が十一月二十三日に斎行されました。

井波町中核農業士協議会（会長 木村正治氏）より、献穀田で収穫された「コシヒカリ」と「白酒」が供えられました。

砺波地区農業協同組合協議会からの幣帛も供えられ、「なんと農業協同組合」永井正夫組合長により祭文が奏上されました。

また、篤農家・農業功労者には表彰状、献穀田奉耕者・奉納者には感謝状が贈られました。



（篤農家表彰）

原野豊郷（砺波市）

中島 明（福岡町）

（農業功労者表彰）

故高正 潔（南砺市）

（感謝状授与）

岩倉清志（南砺市）

野原昭治（南砺市）

野原孝次（南砺市）

島田洋一（砺波市）

南部 栄（南砺市）

（敬称略）

献茶式

十月十七日午前十一時より「高瀬神社献茶奉賛会」による「第三十一回献茶式」が斎行されました。

祭典では、梅沢雅順^{うたより}社中による琴演奏のなか、野島武氏のお点前により、濃茶・薄茶の順にお供えされました。

斎館と参集殿では表千家流橋爪孝仙社中の担当により、薄茶席・煎茶席・点心席が設けられ、約三〇〇名の愛好家で社頭賑わいました。

責任役員就任

武 田 修 氏

（砺波市庄川町）

平成十六年九月一日 就任

同氏は昭和四年生まれで七十六歳。センダン電子^株会長、庄川開発^株代表取締役、砺波市庄川町合併協議会委員など数々の役職を務められた経験から今後の活躍が期待されます。

剣道大会

九月二十日「第四十二回奉納剣道大会」が開催されました。拝殿での奉告祭が執り行われ、選手による「日本剣道形」の奉納がありました。

トーナメントでは砺波地区の小中高校生約二〇〇名により競技が行われ、秋空のもと、元氣な掛け声で熱戦を繰り上げました。

また、試合に先立ち、国体強化選手に激励金が手渡され、参加者一同国体での健闘を祈念しました。試合結果は次の通りです。

《団体の部》

▽小学生男・女

①井波町剣道スポーツ少年団

②晴武館

▽中学生男子

①井波中学校

②福野中学校

③般若中学校

▽中学生女子

①井波中学校

②出町中学校

《個人の部》

▽小学生

①中村 法貴（井波町）

②青山 空（井波町）

③小西 耕平（晴武館）

川合明日香（福野町）



▽中学生男子

①永森 駿一（井波）

②和田 孝司（石動）

③柴田 康成（津沢）

▽中学生女子

①山田佳奈恵（井波）

②武田 佳澄（井波）

③松山 香織（庄川）

林 香里（城端）

▽高校生男子

①山田 宗元（福野）

②近川 竜也（福野）

③齋藤 朔（福野）

寺井 達哉（砺波）

▽高校生女子

①島 由貴（砺波）

②藤井 美春（福野）

③光田 幸恵（砺波）

島田 明奈（井波）

「里芋おはぎ茶会」開催

高瀬遺跡保存協会（横山豊介会長）による「里芋おはぎ茶会」が十二月五日に開催されました。

「里芋おはぎを作る会」の七名の作り手により、「おはぎ」が作られ、御神前に供えられました。

茶席では井波町茶道同好会による茶席が設けられ多くの方が伝統の味を楽しみました。当地方では米との安定を計るため里芋が多くの農家で栽培されています。



写真提供（井波歴史民俗資料館）

「奉納」

（敬称略）

○手水舎柄杓置台

南砺市山下 南部写真館

平成十六年九月一日 南部 栄

○菊花鉢

砺波市庄川町青島 島田洋一

平成十六年十月三十日

○菊花鉢

南砺市井波 野原昭治

南砺市井波 野原孝次

平成十六年十一月四日

迎春

全国にあなたの花をお届けします

花キューピット

ミニフラワーショップ

ショッピングセンターアミュー内

TEL（〇七六三）二二一六三八八

祝儀料理
鮮魚・仕出し
福光屋

南砺市山見一七二〇

TEL（〇七六三）八二一五〇八二（アスモ店）
八二一〇七〇六（仕出し部）

牧印刷株式会社

南砺市理休三三三一

TEL（〇七六三）一六二一〇一一二

FAX（〇七六三）一六二一三三八三

献穀田だより

拔穂祭斎行

平成十六年九月十二日、井波町中核農業士協議会による「拔穂祭」が高瀬の献穀田で斎行されました。

春の御田植祭で植えられた苗が、夏の悪天候にも負わず豊かに実りました。

当日は、関係者六十名が参集し、五名の早乙女(岩崎志織さん、藤原美香さん、谷田乃里恵さん、小橋里帆さん、岩倉永吏さん)が水田に入り稲を刈り取り、木村正治会長に手渡されました。

刈り取られた稲は十二月二十三日の新嘗祭で御神前にお供えされました。



初穂曳奉仕

去る十月十五日・十六日の両日にかけて、伊勢の神宮へ初穂を捧げる「第三十二回初穂曳」が行われ、献穀田奉耕者の岩倉清司氏、井波町中核農業士協議会松井俊明氏・齊藤欄宜の三名が参加しました。

「二日神領民」として献穀田で収穫した「コシヒカリ」の稲束を納め、神恩感謝と更なる五穀豊穡をお祈りしました。



ご結婚おめでとうございます

平成十六年六月から十月まで御婚礼の御儀を執り行われた皆様です。
(挙式日、時間順)

ご新郎ご新婦の末永いご多幸とご両家益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

(六月)		五日	川合 弘亮様
十三日		長井千代司様	詞子様
二六日		松田 晃明様	奈美江様
二七日		澤田 明博様	和江様
(七月)		三日	清部 仁史様
四日		杉本 敦様	恵理子様
(八月)		二二日	藤井 貴司様
初恵様		俊博様	瑠里様
(九月)		二二日	梶井 義久様
二五日		藤井 志保様	徳明様
二六日		中山 千秋様	
(十月)		一六日	山田 聡様
一七日		直井 要様	千尋様
二四日		齊藤 正晴様	梢様
二八日		元井 義裕様	周福様
三〇日		樋口 孝博様	沙織様
三一日		高多 悦子様	康弘様
(十一月)		六日	堀田 聡様
七日		網谷 賢吾様	知寿様
一三日		安丸 恵美子様	忍様
二八日		石附 ちづる様	真様
二八日		山莊 裕美様	龍一様

「災害見舞い御礼」

去る十月二十日、台風二十三号襲来により本殿並びに宝物殿の屋根などに一部破損、倒木が六十余本生じました。幸い職員には怪我もなく、これも大神様の御加護によることと感謝しております。

破損屋根の修復・境内整備作業はおかげさまをもちまして完了いたしました。

氏子の方々の労力奉仕、また、皆様には丁重なるお見舞いを頂きましたこと厚く御礼申し上げます。

宮司 藤井秀弘



村総出（氏子境内復旧作業）



倒木

戌の日（安産祈願）

1月2日・14日・26日	7月1日・13日・25日
2月7日・19日	8月6日・18日・30日
3月3日・15日・27日	9月11日・23日
4月8日・20日	10月5日・17日・29日
5月2日・14日・26日	11月10日・22日
6月7日・19日	12月4日・16日・28日

新年明けましておめでとうございます。
 昨年は自然災害に悩まされた一年でしたが、今年は穏やかに過ごしたいものです。
 社報も第五号を数え、充実した紙面をお届けできるよう努力してまいります。
 本年も皆様のより一層の御健康と御多幸を衷心よりお祈り申し上げます。
 （泰）

編集後記

平成17年 厄年

本年は次の通りです。

（男性）

25歳 前厄（昭和57年生）
 本厄（昭和56年生）
 後厄（昭和55年生）

42歳 前厄（昭和40年生）
 本厄（昭和39年生）
 後厄（昭和38年生）

（女性）

19歳 前厄（昭和63年生）
 本厄（昭和62年生）
 後厄（昭和61年生）

33歳 前厄（昭和49年生）
 本厄（昭和48年生）
 後厄（昭和47年生）